

# 『かけざん九九を覚えたら』

「かけざん」も「たしざん」も、重要なのは『一の位』の数だった。

算数の計算力だけで「因数分解」「平方根」の基礎を創り、同時に「倍数」「約数」「因数」「素数」の概念を養います。

保護者の皆様へ

日本の小学校教育を受けた者なら誰でも「かけざん九九」はみな当たり前で覚えていることでしょう。しかし、「かけざん九九」を使いこなしているかどうかということになると、ちょっと考えてしまうのではないのでしょうか。

また、高校時代にこんな事を考えたことはありませんか。「理系のヤツらは何でこんな問題が解けるんだ、計算が何でこんなに速いんだ」と。「小学生の時はむしろ自分の方が成績が良くて中学生の時だって総合力では自分の方が上だったはずなのに、高校生になったら自分は数学で手こずっているのにアイツらは何の戸惑いもなくスイスイと解けるんだ」と。さらには「この問題が理解できないお前の方が理解できない」とか言われたりして。

もしかしたらこれは私だけの愚痴や妬みなのかもしれません。何しろ中学生の時には数学で「偏差値 80」を出したことがあるにもかかわらず、高校に入ったとたん何かが何やらわからなくなり、気づいたときにはテストで0点を取ってしまっていたのですから。

本書は、そんな筆者（塾長）が塾（桐生進学教室）で長年指導してきたなかで感じている今の生徒たちの「計算力の低下」に危機感を覚えつつ、理系の大学に進んだ塾生たちの計算力（発想力）の分析と我が子が幼い時に一緒に算数で遊んだ記憶を元にしてまとめあげた『幼児もしくは小学校低学年児童のための英才教育』の問題集です。理系の子供は数字に対する着眼点がすでにこの時期から違っています。それが開花し誰の目にも明らかになるのが「高校生になってから」ということなのだと思えます。

とはいえ本書の中で使われている数字はあくまでも「かけざん九九」の中のものに限定してありますので、「因数分解」「平方根」など中学三年生範囲の数学の用語を使ってはいますが“本物”ではありませんのでくれぐれもご注意ください。本物の問題集などには手を出さぬようお願いいたします。「どうしても」という場合は、保護者の方が一度目を通して「かけざん九九」の範囲で解けるものだけを選んであげてください。

『子供の英才教育』を成功させる秘訣は「一緒に遊ぶこと・楽しむこと」にあると思っています。決して詰め込むことなく追い詰めることなく十分に余力と余白を残しておいてください。正しい方向性さえ示してあげれば子供は自分のペースで進んで行きます。解けたらたくさん褒めてあげてください。そして、子供を褒めている自分も褒めてあげてください。

※「本書」とあるのは、当初は「問題集」として出版する予定だったからです。

塾のホームページ開設にあたり、内容を少し変えてここに開示しました。

プリントアウトしてお子さんにやらせてみてください。（一緒にやってみてください。）

なお「本書」のタイトルは『かけざん九九を覚えたら』で、かけざんを覚えた後のことを扱っていますが、どうやら「かけざん九九」の覚えさせ方にも秘訣があるようです。

それはまだ仮説の域を出ていないので、検証ができしだい開示する予定です。